

九条北小学校 校長室だより

NO.58 令和2年9月18日



今週末は4連休となります。9月21日（月・祝）は「敬老の日」、22日（火・祝）は「秋分の日」です。児童朝会で「敬老の日」についてお話ししましたので、ここでは、「秋分の日」の由来や関連する事柄を紹介したいと思います。

★ 双方向通信アプリ「Teams」

の接続テストへのご協力ありがとうございます！★

4年生・5年生の双方向通信接続テストへのご協力ありがとうございました。担任の先生の出題するクイズや会話を楽しんでいる様子が感じられました。次の日に登校した時に、「また、やりたい！」という声が児童から出ていました。接続テストと同時に、教職員研修も進めています。アプリ「Teams」の活用場面をいろいろ検証していきます。これからもご協力をお願いいたします。

さて、来週23日（水）には2年生・3年生で、24日（木）には1年生で、接続テストを予定しています。保護者メールでもお知らせいたしますが、ご予約の程、よろしくお願いいたします。



★ 「秋分の日」といえば…！ ★

「秋分の日」といえば、「**昼と夜の長さが同じ日**」。実は世界的に珍しい祝日です。**その年の太陽が秋分点を通過する日によって毎年日付を変える特殊な祝日**です。その年のなかで昼と夜の長さがほぼ等しくなる日を、春は「春分の日」、秋は「秋分の日」とそれぞれ定めています。また、「秋分」という呼び名は、中国から伝わった季節の節目を表す日の名称をつけたものだそうです。これを日本が取り入れ、私たちの生活にも根づいています。

秋分の日には「**彼岸の中日（ひがんのちゅうにち）**」ともいわれています。秋のお彼岸にご先祖さまのお墓参りをします。秋のお彼岸は、秋分の日と前後3日間を合わせた7日間のことをいいます。初日を「彼岸入り」、最終日を「彼岸明け」、ちょうど間の秋分の日を彼岸の中日と呼んでいます。

彼岸の中日である秋分の日には、おはぎを食べる風習があります。その由来は諸説ありますが、一つは小豆の赤には邪気を払う効果があるとして先祖に供えられたのがきっかけというもの。おはぎに使われる砂糖は、かつて貴重とされており、特に江戸時代の庶民にとっては、おはぎは贅沢な一品でした。小豆は、縄文時代から食べられている日本人に非常に馴染み深い食材でした。このことから、おはぎは先祖にお供えする上等な品、そして前述した邪気を払い健康を祈願する意味でも、お彼岸の行事食となったといえます。

「**暑さ寒さも彼岸まで**」という、よく耳にする言葉があります。春分の日や秋分の日を境に、暑さ寒さがだんだんとやわらぎ、次の季節の始まりを感じるという意味です。「**秋分の日**」を境に、**季節は秋らしくなっていくこと**でしょう。

